様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	愛知学泉大学
設置者名	学校法人安城学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
家政学部	ライフスタイル学科	夜・通信		0	18	18	13	
	管理栄養学科	夜・通信			18	18	13	
	こどもの生活学科	夜・通信			47	47	13	
現代マネジメント学部	現代マネジメント学科	夜・通信		0	18	18	13	

（備考）
現代マネジメント学部　平成 31 年 4 月から募集停止
家政学部 3 専攻を令和 2 年 4 月から 3 学科体制に変更。
　家政学科家政学専攻→ライフスタイル学科
　家政学科管理栄養士専攻→管理栄養学科
　家政学科こどもの生活専攻→こどもの生活学科

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

家政学部ライフスタイル学科
https://www.gakusen.ac.jp/u/department/lifestyle/syllabus/2020/life_tebiki.pdf
家政学部管理栄養学科
https://www.gakusen.ac.jp/u/department/nutrition/syllabus/2020/nut_tebiki.pdf
家政学部こどもの生活学科
https://www.gakusen.ac.jp/u/department/children/syllabus/2020/kodomo_tebiki.pdf
現代マネジメント学部現代マネジメント学科
https://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/management/sirabasu/guide2021.pdf

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由） 該当なし

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	愛知学泉大学
設置者名	学校法人安城学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.anjogakuen.jp/public-information/officer/

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	商工会議所会頭	2019.05.29 ～ 2022.05.28	企業経営者として、長年にわたり組織及び社員の管理運営の実績をもとに学校経営に向けた指導と助言をいただいている。
非常勤	税理士法人代表役員	2019.04.01 ～ 2022.03.31	税理士法人の代表社員として、長年にわたる様々な企業に対する経営支援の実績をもとに本学園の財政健全化及び経営改善に向けた指導と助言をいただいている。
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	愛知学泉大学
設置者名	学校法人安城学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） シラバス作成要領に基づき、各教科担当が授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法・基準、予習・復習の具体的内容、予習・復習時間、授業期間の授業の進め方、当該科目と学位授与基準との関連、履修系統図での科目の位置づけ（他科目との関連含む)、実務経験のある教員による授業科目等を記載した授業計画（シラバス）を作成する。その後、教務委員会で内容チェック・修正する。3 月下旬にシラバスを完成し、ホームページに家政学部全科目を掲載公表している。	
授業計画書の公表方法	家政学部ライフスタイル学科 http://www.gakusen.ac.jp/u/department/lifestyle/curriculum.html 家政学部管理栄養学科 http://www.gakusen.ac.jp/u/department/nutrition/curriculum.html 家政学部こどもの生活学科 http://www.gakusen.ac.jp/u/department/children/curriculum.html 現代マネジメント学部現代マネジメント学科 https://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/management/curriculum.html
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） 学修の成果及び評価については、全教員が学位授与の方針（ディプロマポリシー）に対応した成績評価方法と評価基準を具体的にシラバスに明示し、成績評価をする際には、学修成果（筆記（レポート）試験・小テスト・レポート・成果発表）と学修行動（学修態度）を評価している。また、学修行動（学修態度）については、家政学部の統一ルーブリック評価表を活用し、厳格かつ適正に評価をしている。	
３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

【家政学部】

学習の状況及び成果を示す GPA の算出方法については、学生便覧（キャンパスライフ）及びホームページにて公表している。GPA に基づく成績分布状況の把握と指導は下記のように行っている。

GPA が 1.0 未満の学生に対し、学生自身の履修計画の指導に活用したり、指導教授等の面談による修学指導に活用する。また、奨学金候補者、留学候補者の選考等に利用している。毎学期 GPA が 1.0 未満の学生に指導教授が面談、2 期連続して 1.0 未満の学生には、専攻主任が学習指導及び保護者との面談、3 期連続して 1.0 未満又は 4 期以上 1.0 未満の学生には、学部長が学習指導・面談を行い学長に報告し、退学勧告を行うことができる。再度該当者と面談し、学業継続の可能性がある場合は、退学勧告を保留にすることができる。

算出方法：履修登録した科目の成績評価（秀・優・良・可・不可）を 4～0 までの点数（GP：Grade Point）に置き換え、それぞれの単位数を乗じ、その合計を履修登録単位数の合計で除して算出します。

（GP 基準）

成績評価	秀（S） 90 点以上	優（A） 89～80 点	良（B） 79～70 点	可（C） 69～60 点	不可 59 点以下
GP	4	3	2	1	0

（GPA を算出する計算式）

$$\text{学期 GPA} = \frac{\text{（当該学期に評価を受けた各授業科目の GP×当該授業科目の単位数）の合計}}{\text{当該学期に評価を受けた授業科目の単位数の合計（不可・放棄の単位数を含む）}}$$

【現代マネジメント学部】

学習の状況及び成果を示す GPA の算出方法については、学生便覧（キャンパスライフ）及びホームページにて公表している。GPA に基づく成績分布状況の把握と指導は下記のように行っている。

GPA が 1.0 未満の学生に対し、学生自身の履修計画の指導に活用したり、指導教授等の面談による修学指導に活用する。また、奨学金候補者、留学候補者の選考等に利用している。毎学期 GPA が 1.0 未満の学生に指導教授が面談、2 期連続して 1.0 未満の学生には、教務委員長が学習指導・面談、3 期連続して 1.0 未満又は 4 期以上 1.0 未満の学生には、学部長が学習指導・面談を行い学長に報告し、学長は退学勧告を行うことができる。再度該当者と面談し、学業継続の可能性がある場合は、学長は退学勧告を保留にすることができる。

算出方法：GPA（Grade Point Average）を単位制度の補完目的で活用しています。GPA は、一定の期間に履修した各科目の成績評点（Grade）に、その単位数を掛けた数値の総和を、総履修単位数で割って算定されます。ただし、やむをえない理由で試験を受けることができなかった科目の単位は計算に入りません。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	家政学部ライフスタイル学科 https://www.gakusen.ac.jp/u/department/lifestyle/syllabus/2020/tebiki.pdf 家政学部管理栄養学科 https://www.gakusen.ac.jp/u/department/nutrition/syllabus/2020/tebiki.pdf 家政学部こどもの生活学科 https://www.gakusen.ac.jp/u/department/children/syllabus/2020/tebiki.pdf 現代マネジメント学部現代マネジメント学科 https://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/management/curriculum.html
４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

本学が設置する学部・学科の教育目標は、以下のとおりである。

(1) 家政学部の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・ｐｉｓａ型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。

イ　ライフスタイル学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を育成することである。

ロ　管理栄養学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、チーム医療、健康増進・疾病予防、食育・栄養指導又は健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することである。

ハ　こどもの生活学科（初等教育教員養成課程）の教育目標は、家政学部の教育目標の下、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして、こどもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成することである。

(2) 現代マネジメント学部現代マネジメント学科の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②地域社会及びマネジメントに関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・ｐｉｓａ型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。

○具体的な卒業の認定は下記の単位を修得したことを確認し、学長が卒業を認定する。

一　家政学部ライフスタイル学科にあっては、学部共通科目については２４単位以上、専門科目については９６単位以上、総計１２４単位以上。

二　家政学部管理栄養学科にあっては、学部共通科目については２４単位以上、専門科目については８４単位以上、総計１２４単位以上。

三　家政学部こどもの生活学科にあっては、学部共通科目については２４単位以上、専門科目については９３単位以上、総計１２４単位以上。

四　現代マネジメント学部：教養科目 48 単位以上、専門基幹 30 単位以上、専門応用 46 単位以上、総計 124 単位以上

卒業の認定に関する方針の公表方法	家政学部ライフスタイル学科 http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/gakusoku.pdf 家政学部管理栄養学科 http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/gakusoku.pdf 家政学部こどもの生活学科 http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/gakusoku.pdf 現代マネジメント学部現代マネジメント学科 http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/diplo_policy_manage.pdf

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	愛知学泉大学
設置者名	学校法人安城学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.anjogakuen.jp/wp/wp-content/uploads/bs_2020.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.anjogakuen.jp/wp/wp-content/uploads/fs_2020.pdf
財産目録	https://www.anjogakuen.jp/wp/wp-content/uploads/gi_2020.pdf
事業報告書	https://www.anjogakuen.jp/wp/wp-content/uploads/br_2020.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.anjogakuen.jp/wp/wp-content/uploads/ar_2020.pdf

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：　—	対象年度：　　）
公表方法：　—	
中長期計画（名称：　—	対象年度：　　）
公表方法：　—	

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：https://www.gakusen.ac.jp/u/univ/report.html

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：https://www.gakusen.ac.jp/u/univ/hyouka.html

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　家政学部ライフスタイル学科
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/kyouikumokuhyou.pdf）
（概要） 本学が設置する学部・学科の教育目標は、以下のとおりである。 家政学部の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・ｐｉｓａ型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。 イ　ライフスタイル学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を育成することである。 ロ　管理栄養学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、チーム医療、健康増進・疾病予防、食育・栄養指導又は健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することである。 ハ　こどもの生活学科（初等教育教員養成課程）の教育目標は、家政学部の教育目標の下、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして、こどもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成することである。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/diplo_policy_kasei.pdf）
（概要） ライフスタイル学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住および地域活性の面から支援することができる人材を育成することです。正規のカリキュラムの所定の単位を修得した者には卒業を認定し、学士（家政学）の学位を授与します。学位を授与するにあたって重視する項目は以下のとおりです。 ① 建学の精神、社会人基礎力、pisa 型学力を修得して、職場と地域の人々と協働して解決していくことができる。 ② ライフスタイルのデザインを提案するために必要な衣・食・住および地域活性に関連する専門的知識・技能を身に付け、地域再生に貢献することができる。 ③ 自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/diplo_policy_kasei.pdf）
（概要） (A)カリキュラムの編成について (A-1)カリキュラム編成の基本方針について ライフスタイル学科のカリキュラムは、共通科目と専門科目から構成されます。 すべての科目において、グループワークの機会を設定しています。

そして、地域と連携した内容の授業科目を各年次に配置することによって、社会人基礎力・pisa 型学力を育成していきます。
授業形態は、講義・演習・実習の３タイプ用意しています。各科目の関連性を明確化するためにカリキュラムマップを作成しています。
共通科目は、社会的に自立して生きていく上で必要なスキル・リテラシー・教養等を学修するために、家政学部共通科目として編成しています。
共通科目の卒業要件は 24 単位以上取得することです。
専門科目は、これからの時代の新しいライフスタイルを創造しうる能力を持った生活者および衣・食・住および地域活性のエキスパートを育成するための科目として編成します。また、「中学校、高等学校の教諭（家庭）」の資格も取得可能です。
専門科目の卒業要件は 96 単位以上を取得することです。
(A-2)教養教育プログラムについて
教養教育とは、社会的に自立して生きていく上で必要なスキル・リテラシー・教養等の基礎的・体系的な一般的知識・技能のことです。
これらの科目は家政学部の共通科目と位置づけ、「教養分野」「保健体育分野」「外国語分野」の３分野で編成しています。
①「教養分野」では、自然科学・人文科学・社会科学に関する基礎的な知識・技能を学修する。
②「保健体育分野」では、講義と実技を通して身体と健康に関する基礎的知識・技能を学修する。
③「外国語分野」では、異文化を理解する上で必要な基礎的な知識・技能を学修する。
(A-3)専門教育プログラムについて
専門教育プログラムは、「ライフスタイル学科基幹科目群」を基軸に「デザイン（空間・情報の分野）」「食品開発・マネジメントの分野」「ビジネス・地域活性の分野」の３分野で編成されています。
これらの専門科目群により、生活に関する専門的知識・技能を獲得し、それを活用しながら、自らを含む地域社会の課題を解決する方策を実践的に学修します。
①「ライフスタイル学基幹科目群」について
この科目群では、生活に対する基本的視座を涵養するためにライフスタイル学基礎講座と国内研修旅行を、生活に関する基礎的知識を獲得するために、衣・食・住の各領域の概論（衣生活論・食生活論・住生活論）を必修科目として置く。また、４年間の学修の集大成となる卒業研究もこれに含む。
②「デザイン（空間・情報の分野）」について
この分野では、身体の近接環境である衣服やインテリアおよび情報環境をデザインするために必要な知識・技能を学修する。
③「食品開発・マネジメントの分野」について
この分野では、食品開発に必要な食文化、食品、栄養、調理に関する知識・技能を学修する。
④「ビジネス・地域活性の分野」について
この分野では、地域の問題を収集、分析、整理して課題解決の提案をするために必要な知識・技能を学修する。
⑤各分野には、学修内容をより実践的に応用し、新しいライフスタイルをデザインするための素地を養うために PBL 型の科目「スタジオ A（空間・情報・デザイン）,B（食開発）,C（地域活性）を置く。
(A-4)初年次教育プログラムについて
初年次教育として「、ライフスタイル学演習Ⅰ,Ⅱ」「未来へつなぐアウトリーチスタートアップ」及び「未来へつなぐアウトリーチ」を配置しています。
「ライフスタイル学演習Ⅰ,Ⅱ」では、リテラシー能力」の向上に焦点を当て、教育目標の基盤を育成しています。

「未来へつなぐアウトリーチⅠ」では、PDCA（P:計画、D:実施、C:チェック、A:修正）サイクルを活用して、家政学の核となる衣・食・住・消費活動などの生活環境の視点から地域の課題を発見し、その課題解決を目指します。

これらの科目では、他者との関わりを重視しながら以下の能力を育成していきます。

①生活における他者との関わりの重要性を知る。

②「見た」・「聞いた」・「読んだ」内容を論理的に表現する力を育成する。

③地域社会の課題を発見し、他者と協調し、その課題解決に取り組むことができる人間となるための基礎的な力を育成する。

(A-5)キャリア教育プログラムについて

卒業後の進路を保障するために、以下の３点に焦点を当てたインターンシップの実施と就職支援プログラムとして「インターンシップ論、インターンシップ、キャリアデザイン講座」を配置しています。

①インターンシップを通して、仕事の現場を体験的に確認し、組織の一員としての使命感、責任感を育成します。

②適性検査、自己分析を行い、自分に合った進路の選択を考える能力を育成します。

③様々な業種・職種で活躍する社会人及び先輩の講話を聴き、自分の能力を社会貢献につなげていくための能力の適格性、開発方法、心構えなどを育成します。

なお、中学校、高等学校教諭を目指す学生に対しては教職課程委員会と連携して「教員採用試験対策講座」を開設しています。

(A-6)リメディアル教育プログラムについて

入学時にスクリーニングテストを行い、学力が不足していると判断された学生に対しては補習を実施します。

公開講座「日本語を磨く、自分を磨く」において、日本語表現の基礎を学び直します。

(A-7)教職課程教育プログラムについて

教育の現場で必要とする知識・技能を修得して、中学校、高等学校の教諭（家庭）免許が取得できるカリキュラムを編成しています。

授業方法は、以下の３点に焦点を当てて、講義に加え事例研究・模擬授業・集団討議を行います。

①教育課程、指導法について学びながら、学校における教育の意義や中学校、高等学校教諭の職務内容を理解する。

②模擬授業を通して、教育指導の実践能力を養う。

③教育実習を通して、指導の重要性を体験的に確認し、中学校、高等学校の教諭としての使命感、責任感を養う。

(B)カリキュラムの実施について

チームティーチング形式の授業を初年次から配置しています。複数の教員が関わることにより、ライフスタイル学科の特徴的な学修への動機づけ・学修方法の理解、社会人基礎力の必要性を理解してもらいます。また、体験型学修の核となる学生間の人間関係の形成も視野に入れて授業を行います。

①体験型学修として PBL 型のスタジオ学修を用意する。このスタジオ学修は、学生が「無限の可能性」に挑戦する絶好の機会となる。

②スタジオ学修では、年度ごとに設定するテーマの下で、教員と学生が小グループを組織し、家政学の専門的知識・技能を活用して、創造的作業を通して考えたことを目に見える形にして提案する能力を育成する。

この学修の過程では、学生個々の潜在能力を最大限引き出していくために社会人基礎力と pisa 型学力の発揮が必須となる。

③スタジオ学修で見出した自分の能力を進路実現に結びつけるために、「キャリアデザイン講座」を配置する。この科目を通して、職業に対する意識と職場への適応能力、社会人としての自覚を深める。

④クラス指導教授は定期的に学生と面談を行い、履修状況、進路希望等を確認しつつ、適切な履修指導を行う。
⑤学修成果の評価は、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度・習熟度の確認を行う。
⑥ルーブリック評価等を用いて、評価の可視化を行う。ルーブリックはディプロマ・ポリシーの能力形成を評価できる評価内容とする。
(C)資格対応について
　取得可能な資格は以下のとおりです。
　①中学校教諭一種免許状（家庭）
　②高等学校教諭一種免許状（家庭）
　③フードスペシャリスト
　④商品プランナー
　⑤スポーツインストラクター
　⑥商品装飾展示士３級

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/admi_policy.pdf）

（概要）
　ライフスタイル学科では、愛知学泉大学の掲げる建学の精神を尊重し、暮らしに関わる様々な事象に強い関心を抱き、より良い生活のあり方を提案しうる能力を持った生活者及び、衣・食・住および地域活性のエキスパートとして社会に貢献したいという意欲を持った人を求めています。
　そこで、次に掲げるような人を積極的に受け入れます。
(A)学力の３要素について
(A-1)基礎的・基本的な知識・技能について
　国語、地歴・公民、生物・化学、数学、英語、家庭科に関する高等学校卒業レベルの基礎学力を身につけている。
(A-2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等について
①日常の生活の中から課題を発見し、それらの課題に対して自分の考えを持つことができる。
②他者の考えを理解し、自分の考えと合わせて課題を分析することができる。
③適切な表現方法を選択し、自分の考えを他者にわかりやすく伝えることができる。
(A-3)主体的に学習に取り組む意欲・関心・態度について
①衣・食・住をはじめとして家族・家庭、地域、環境など暮らしに関わる様々な事象に強い関心を持っている。
②大学での学びの過程で、社会人基礎力を伸ばし、pisa 型学力を身につけたいと考えている。
③建学の精神を実践し、自己の特性を伸ばしつつ、社会に貢献したいと考えている。
(B)行動特性について
①何事に対しても積極的に取り組み、継続して努力することができる。
②様々な課題の解決に向けて深く考察し、複数のアイデアを提案できる。
③内容を整理しながら聞き、わからないことは進んで質問をすることができる。
④社会のルールに則り、自らの言動を適切に律することができる。
(C)評価について
①知識・技能については、記述式の筆記試験および調査書で確認します。
②思考力・判断力・表現力等については、記述式の筆記試験および面接で確認します。
③主体的に学習に取り組む態度については、面接および調査書で確認します。
④行動特性については、面接および調査書で確認します。

⑤①～④までの各評価の比重は学生募集要項に明記します。

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　家政学部管理栄養学科
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/kyouikumokuhyou.pdf）
（概要） 本学が設置する学部・学科の教育目標は、以下のとおりである。 家政学部の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・ｐｉｓａ型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。 イ　ライフスタイル学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を育成することである。 ロ　管理栄養学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、チーム医療、健康増進・疾病予防、食育・栄養指導又は健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することである。 ハ　こどもの生活学科（初等教育教員養成課程）の教育目標は、家政学部の教育目標の下、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして、こどもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成することである。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/diplo_policy_kasei.pdf）
（概要） 管理栄養学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、「食」の専門家として疾病治療・重症化予防、疾病予防、食育と食環境を整えるための高度な知識と技能を持ち、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することです。正規のカリキュラムの所定の単位を修得した者には卒業を認定し、学士（家政学）の学位を授与します。学位を授与するにあたって重視する項目は以下のとおりです。 ① 建学の精神、社会人基礎力、pisa 型学力を修得して、職場と地域の人々と協働して課題を解決していくことができる。 ② 管理栄養士に必要な疾病・疾病予防・食育に関する専門知識・技能を身に付け、豊かな食生活と健康を創造することができる。 ③ 自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/curri_policy_kasei.pdf）

（概要）
(A)カリキュラムの編成について
(A-1)カリキュラム編成の基本方針について
　管理栄養学科の教育課程は、共通科目と専門科目から構成されます。
　授業形態は、講義・演習・実習の 3 タイプ用意しています。各科目の関連性を明確化するためにカリキュラムマップを作成しています。
　共通科目は、社会的に自立して生きていく上で必要なスキル・リテラシー・教養等を学修するために、家政学部共通科目として編成しています。
　共通科目の卒業要件は 24 単位以上取得することです。
　専門科目は、管理栄養士の資格を生かした「疾病治療・重症化予防」、「疾病予防」、「食育・食環境の整備」等、管理栄養士の資格を生かした各分野で活躍する人材の育成を目的としたカリキュラムを編成しています。また、「栄養教諭」の資格も取得可能です。
　専門科目の卒業要件は 84 単位以上取得することです。なお、厚生労働省の定める管理栄養士養成施設であるので、法令に適合したカリキュラムとなっています。
(A-2)教養教育プログラムについて
　教養教育とは、社会的に自立して生きていく上で必要なスキル・リテラシー・教養等の基礎的・体系的な一般的知識・技能のことです。
　これらの科目は、共通科目と位置づけて、「教養分野」「保健体育分野」「外国語分野」の 3 分野で編成しています。
①「教養分野」では家政学・自然科学・人文科学・社会科学に関する基礎的な知識・技能を学修する。
②「保健体育分野」では、講義と実技を通して身体と健康に関する基礎的知識・技能を学修する。
③「外国語分野」では、異文化を理解する上で必要な基礎的な知識・技能を学修する。
(A-3)専門教育プログラムについて
　管理栄養学科の専門教育は、専門分野の基礎となるものを専門基礎分野、応用となるものを専門分野に配置し、段階的に理解できるように授業を展開します。
（専門基礎分野）
①栄養学を学修するために必要な基礎的な専門知識を修得するために、生物学入門、化学入門、化学基礎実験、栄養英語を置く。
②社会的課題としての保健・医療・福祉等についての基礎知識並びに環境因子、社会的諸制度としての衛生行政・衛生法規・地域保健対策等について理解するために、公衆衛生学に関する必修科目を置く。
③人体の構造や機能を体系的に理解した上で、主要疾患の成因・病態・診断、治療等について理解を深めるために、解剖・生理学・生化学・臨床医学に関する必修科目とともに実験・実習科目を置く。
④食品の化学成分の構造・性質、物性等の基礎知識及び調理・加工による変化、栄養性・嗜好性の高い食物を調製する技術、食品表示・安全性について学修するために、食品学・調理学・食品衛生学に関する必修科目とともに実験・実習科目を置く。
（専門分野）
①栄養の基本的概念及びその意義並びにエネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義を理解するために、基礎栄養学に関する必修科目とともに実験科目を置く。
②各ライフステージにおける栄養状態や心身機能の特徴に基づいた栄養管理の基礎を理解するために応用栄養学に関する必修科目とともに実習科目を置く。
③健康・栄養状態・食行動・食環境に関する情報を収集・分析するとともに、それらの総合的評価・判定に基づく栄養教育プログラムを作成する能力を修得するために、栄養教育論に関する必修科目とともに実習科目を置く。
④傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて栄養管理計画の作成・実施・評価に関す

る総合的マネジメントの考え方を理解するために、臨床栄養学に関する必修科目とともに実習科目を置く。
⑤地域や職域の健康・栄養問題とそれを取り巻く諸要因を分析するとともに様々な健康・栄養状態の者に対する適切な栄養関連サービスのあり方について理解を深めるために、公衆栄養学に関する必修科目とともに実習科目を置く。
⑥給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経済面全般についてマネジメントを行う能力を修得するために、給食経営管理論に関する必修科目とともに実習科目を置く。
⑦各専門分野に関わる知識についてさらに理解を深めるとともに、管理栄養士に必要とされる知識・技能を統合して実践活動の場での課題解決能力を修得するために、「臨床総合演習」・「臨地実習」・「卒業研究」を置く。
⑧管理栄養士として卒業後の進路をサポートするための科目（アップグレード分野）を置く。
(A-4)初年次教育プログラムについて
　初年次教育として「未来へつなぐアウトリーチスタートアップ」及び「未来へつなぐアウトリーチⅠ」を配置しています。
　「未来へつなぐアウトリーチⅠ」では、PDCA（P:計画、D:実施、C:チェック、A:修正）サイクルを活用して、家政学の核となる衣・食・住・消費活動などの生活環境の視点から地域の課題を発見し、その課題解決を目指します。
(A-5)キャリア教育プログラムについて
　「課題解決型行動特性」及び「課題解決型学力」の修得、自己成長のためのキャリアビジョンの方向性や目標の明確化のために、「管理栄養士への道」・「基礎キャリア教育」を配置しています。
　「管理栄養士への道」では、管理栄養士の職業に対する理解を深め、管理栄養士の行動特性を理解し、自己のビジョンを達成する生涯学習計画を立てる授業を行います。
　「基礎キャリア教育」では、各分野で活躍する専門家からの講話を聴く中で、自分の能力を社会貢献につなげていくための能力の適格性、開発方法、心構えなどを学び、望ましい管理栄養士の専門的行動能力（コンピテンシー）を学修し、就職につながる意識を高めます。
　さらに、専門実践実習として疾病治療・重症化予防、疾病予防、食育・食環境の３分野の実習科目を設け、これまでに学修した専門的知識・技能を活用して、実践活動に結びつけます。
(A-6)リメディアル教育プログラムについて
　読解力、数読理解（計算含む）をリメディアル教育内容として設定しています。これらは、1年次に専門科目を学ぶための導入教育として配置しています。
(A-7)教職課程教育プログラムについて
　教育の現場で必要とする知識・技能を修得して、栄養教諭免許が取得できるカリキュラム(18科目で構成)を編成しています。
　授業方法は、以下の３点に焦点を当てて、講義に加え事例研究・模擬授業・グループ討議・ロールプレイング等実践的な学修方法を取り入れます。
①学校における食育のあり方や栄養教諭の職務内容の理解等栄養教諭に必要な食育基本法や学校給食法等を学修します。
②食育の模擬授業や肥満・やせ、食物アレルギー等栄養教諭に必要な個別指導の実践能力を育成します。
③小学校(中学校)の役割・組織及び栄養教諭の職務内容に関する理解を通して、栄養教諭としての使命感と責任感を育成します。
(B)カリキュラムの実施について
　カリキュラムの実施については、下記の通りです。
①各専門分野の科目においては、管理栄養士に必要な知識・技能を理解するために、

講義とそれに関わる実験・実習を行う。
②課題解決型学力（pisa 型学力）、課題解決型行動特性（社会人基礎力）を発揮する授業を実践する。
③シラバス上に予習・復習内容及び必要な学修時間（目安）を記載し、授業の内・外での能動的な学修を促す。また、資格取得に向けての課題の提出、資格対策授業等の学修支援を行う。
④クラス指導教授は定期的に学生と面談を行い、履修状況、進路希望等を確認しつつ、適切な履修指導を行う。
⑤学修成果の評価は、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度・習熟度の確認を行う。
⑥ルーブリック評価等を用いて、評価の可視化を行います。ルーブリックはディプロマ・ポリシーの能力形成を評価できる評価内容とする。
(C) 資格対応について
　取得可能な資格は以下のとおりです。
①管理栄養士国家試験受験資格
②栄養士免許
③栄養教諭一種免許状
④食品衛生監視員任用資格
⑤食品衛生管理者任用資格
⑥健康運動実践指導者認定試験受験資格
⑦商品プランナー認定試験受験資格

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/admi_policy.pdf）

（概要）
　管理栄養学科では、栄養学に強い関心を抱き、「疾病治療」・「疾病予防」・「食育・食環境の整備」などの分野で管理栄養士として社会に貢献したいという意欲を持った人を求めています。
　そこで、次に掲げるような人を積極的に受け入れます。
(A)学力の 3 要素について
(A-1) 基礎的・基本的な知識・技能について
　化学・生物、国語、数学、英語に関する高等学校卒業レベルの基礎学力を身につけている。
(A-2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等について
①食を取り巻く課題を積極的に発見し、自分の考えをまとめることができる。
②自分の考えを他者にわかりやすく説明できる能力を持っている。
（A-3)主体的に学習に取り組む意欲・関心・態度について
①管理栄養士として活躍し、将来的にはその指導的な役割を担う意欲を持っている。
②疾病と栄養との因果関係に関心を持ち、その解明に努力をすることができる。
③食を取り巻く問題を積極的に考察し、自分の考えをまとめることができる。
(B)行動特性について
①何事に対しても積極的に取り組み、継続して努力することができる。
②様々な課題の解決に向けて深く考察し、複数のアイデアを提案できる。
③内容を整理しながら聞き、わからないことは進んで質問をすることができる。
④社会のルールに則り、自らの言動を適切に律することができる。
(C)評価について
①知識・技能については、記述式の筆記試験および調査書で確認します。
②思考力・判断力・表現力については、記述式の筆記試験および面接で確認します。

③主体的に学習に取り組む態度については、面接および調査書で確認します。
④行動特性については、面接および調査書で確認します。
⑤①～④までの各評価の比重は学生募集要項に明記します。

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　家政学部こどもの生活学科
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/kyouikumokuhyou.pdf）
（概要） 本学が設置する学部・学科の教育目標は、以下のとおりである。 家政学部の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・ｐｉｓａ型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。 イ　ライフスタイル学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を育成することである。 ロ　管理栄養学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、チーム医療、健康増進・疾病予防、食育・栄養指導又は健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することである。 ハ　こどもの生活学科（初等教育教員養成課程）の教育目標は、家政学部の教育目標の下、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして、こどもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成することである。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/diplo_policy_kasei.pdf）
（概要） こどもの生活学科の教育目標は、大学の教育目標・教育方針の下に、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして子どもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成します。正規のカリキュラムの所定の単位を修得した者には卒業を認定し、学士（家政学）の学位を授与します。学位を授与するにあたって重視する項目は以下のとおりです。 ①建学の精神、社会人基礎力、pisa 型学力を修得している。 ②現代のこどもの生活問題に対する認識と現実の保育および教育現場での課題に対する見識を深め、専門的な知識と技能を身に付け、現代の子育て問題や教育再生、地域再生に取り組むことができる。 ③自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献しようとする姿勢を持っている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/curri_policy_kasei.pdf）

（概要）
(A)カリキュラムの編成について
(A-1)カリキュラム編成の基本方針について
　小学校教諭一種免許、幼稚園教諭一種免許、保育士資格が取得できるように法令等に適合したカリキュラムを編成しています。
　カリキュラムは学部共通科目と専門科目から編成しています。授業形態は、講義・演習・実習の３タイプ用意しています。また、各科目の関連性を明確化するためにカリキュラムマップを作成しています。
　学部共通科目は、社会的に自立して生きていく上で必要なスキル・リテラシー・教養等を学修するために、家政学部共通科目として編成しています。
専門科目は、教育の意義や理論とともに、各教科教育によって、保育と教育の専門性を高める科目編成になっています。
　学部共通科目の卒業要件は 24 単位以上取得することです。
専門科目は、保育・教育職において必要な専門的な能力を獲得することを目的としたカリキュラム編成をしています。
　専門科目の卒業要件は 96 単位以上を取得することです。
(A-2)教養教育プログラムについて
　教養教育とは、社会的に自立して生きていく上で必要なスキル・リテラシー・教養等の基礎的・体系的な一般的知識・技能のことです。
　これらの科目は、学部共通科目と位置づけて、「教養分野」「保健体育分野」「外国語分野」「その他」の４分野で編成しています。
①「教養分野」では自然科学・人文科学・社会科学に関する基礎的な知識・技能を学修する。
②「保健体育分野」では、講義と実技を通して身体と健康についての基礎的知識・技能を学修する。
③「外国語分野」では、異文化を理解する上で必要な基礎的な知識・技能を学修する。
④「その他」では、学科の教育目標に必要な特別科目を充て、学科で修得する科目内容を実践的な視点から涵養するための知識・技能を学修する。
(A-3)専門教育プログラムについて
　専門教育は、こどもの生活学科の専門科目によって編成されています。
　学科の軸である「コア科目」を中心に、「共通領域」、「幼保領域」、「小学校領域」、「実習（学外）領域」、「ライフ開拓領域」の 6 領域によって構成されています。豊かな人間性の育成とともに、資格取得に必要な専門的知識・技能の修得として、模擬授業などの実践的な体験の機会を組み入れ、小学校教諭・幼稚園教諭・保育士に応じた以下の専門教育プログラムを用意しています。
①小学校教諭、幼稚園教諭、保育士としての心構えと専門的知識・技能を身につけ
②幼稚園教諭としての心構えと専門的知識・技能を身につけるために、保育系の科目、幼児理解や教育経営論等専門科目に加えて教育実習を必修科目として置く。
③小学校教諭としての心構えと専門的知識・技能を身につけるために、教科教育法や教科研究に加えて教育実習を必修科目として置く。
(A-4)初年次教育プログラムについて
　初年次教育として、「こども生活学概論」、「基礎演習Ⅰ･Ⅱ」、「未来へつなぐアウトリーチスタートアップ」と「未来へつなぐアウトリーチⅠ」を配置しています。
　「こども生活学概論」では、子どもを取り巻く現代的な問題や課題に着目し、現代の生活学を子どもの視点から考えます。また「基礎演習Ⅰ･Ⅱ」では、保育・教育職に対する理解を深めるとともに、学修の前提となる基礎知識、コミュニケーションを円滑にするための集団活動、そして子どもと関わるための心構えを以下の段階で学びます。
①建学の精神を踏まえた「学びを理解する」ための学修を行う。

②子どもと関わることを通して言葉や自然について見つめ直すための学修を行う。
③コミュニケーションの重要性を理解し、主体的な態度を獲得するための学修を行う。
④他者と積極的に関わり、グループやクラスで活動をするための学修を行う。
⑤系列幼稚園の見学等を通し、子どもと関わるための心構えの学修を行う。
「未来へつなぐアウトリーチⅠ」では、PDCA（P:計画、D:実施、C:チェック、A:修正）サイクルを活用して、家政学の核となる衣・食・住・消費活動などの生活環境の視点から地域の課題を発見し、その課題解決を目指します。
(A-5)キャリア教育プログラムについて
　卒業後に小学校教諭、幼稚園教諭、保育士として自立して生きていくための能力を育成し、人生に必要な様々な力を修得するために、以下の２点に焦点を当てたキャリア教育を実施しています。
①各種の実習（保育実習・教育実習・施設実習・介護等体験実習）とその事前・事後指導を通して、保育・教育職に就くための能力と組織の中で働く責任感や使命感を育成します。
②保育・教育職の現場で働く社会人や諸先輩の話を聴き、自分がどのような適性を持ち合わせているかを考え、社会に対してどのように貢献していくかを考える力を育成します。
(A-6)リメディアル教育プログラムについて
　読解力、数読理解（計算含む）をリメディアル教育内容として設定しています。これらは、1年次に専門科目を学ぶための導入教育として配置しています。
(A-7)教職課程教育プログラムについて
　小学校教諭免許を取得するための教科教育カリキュラムを編成し、教育の現場で活躍するための専門的知識・技能を学修します。幼稚園教諭免許を取得するためのカリキュラムも含みます。
　授業方法は、講義に加え事例研究や模擬授業、集団討議など行います。
①教育法規を通して、学校教育の意義・小学校教諭の職務内容を理解する。
②小学校の組織・職務内容を通して、教諭としての使命感・責任感を養う。
③小学校の模擬授業を通して、教育指導の実践能力を養う。
④幼稚園の組織・職務内容の理解とともに、実践的な指導能力を養う。
(B)カリキュラムの実施について
　小学校教諭免許、幼稚園教諭免許、保育士資格が取得可能なカリキュラムを編成し、教育・保育の現場で活躍するための専門的知識・技能を学修します。
カリキュラムは、社会的に自立して生きていく上で必要なスキル・リテラシー・教養等の学部共通科目と保育職・教育職に関する専門科目から編成されています。
　すべての科目において、下記のように学生と教員による双方向的で実践的な学修を行っています。また、保育・教育の現場と触れ合い、体験的に学びの内容を確認するためのいくつかの活動も行います。
①学生同士、学生と教員とのコミュニケーションを重視する授業（対話型授業）を行う。
②グループワークを取り入れ、発表を重視する授業（協力・協働型授業）を行う。
③知的好奇心を刺激し、自ら学ぶ意志を引き出すような授業（啓発型授業）を行う。
④シラバス上に予習・復習内容および必要な学修時間を記載し、授業内外での能動的な学修を促す。また、資格取得に向けての学修支援を行う。
⑤クラス指導教授は定期的に学生と面談を行い、履修状況、進路希望等を確認しつつ、適切な履修指導を行う。
⑥学修成果は、学期末テストだけでなく、レポートや小テスト、作品提出、学修発表などによって定期的に理解度・習熟度を確認し評価を行う。
⑦ルーブリック評価等を用いて、評価の可視化を行う。ルーブリックはディプロマ・ポリシーの能力形成を評価できる評価内容とする。

(C)資格対応について 　取得可能な資格は以下のとおりです。 ①小学校教諭一種免許状 ②幼稚園教諭一種免許状 ③保育士資格
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/admi_policy.pdf）
（概要） 　こどもの生活学科では、子どもの教育・保育に関して強い関心を抱き、この分野の専門家として社会に貢献したいという意欲を持った人を求めています。 　そこで、次に掲げるような人を積極的に受け入れます。 (A)学力の３要素について (A-1)基礎的・基本的な知識・技能について 国語、地歴・公民、数学、英語、生物・化学に関する高等学校卒業レベルの基礎学力を身につけている。 (A-2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等について ①子どもを取り巻く環境に関する課題を発見し、自分の考えをまとめることができる。 ②適切な表現方法で、自分の考えを他者にわかりやすく伝えることができる。 ③体育や芸術の分野において自分らしさを表現することができる。 (A-3)主体的に学習に取り組む意欲・関心・態度について ①将来の目標を明確に持っている。 ②常に自分がすべきことを考えて取り組むことができる。 ③ 指示されたこと以上の成果を出そうする意欲がある。 (B)行動特性について ①何事に対しても積極的に取り組み、継続して努力することができる。 ②様々な課題の解決に向けて深く考察し、複数のアイデアを提案できる。 ③内容を整理しながら聞き、わからないことは進んで質問をすることができる。 ④社会のルールに則り、自らの言動を適切に律することができる。 (C)評価について ①知識・技能は、記述式の筆記試験および調査書で確認します。 ②思考力・判断力・表現力等は、記述式の筆記試験および面接で確認します。 ③主体的に学習に取り組む態度は、面接および調査書で確認します。 ④行動特性は、面接および調査書で確認します。 ⑤①～④までの各評価の比重は学生募集要項に明記します。

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　現代マネジメント学部現代マネジメント学科
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/kyouikumokuhyou.pdf）

（概要）
　現代マネジメント学部現代マネジメント学科の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②地域社会及びマネジメントに関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・ｐｉｓａ型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/diplo_policy_manage.pdf）

（概要）
ティプロマ・ポリシー(学位授与の方針)
現代マネジメント学部は、「真心・努力・奉仕・感謝」という建学の精神に基づき(a)基礎学力、(b)地域社会とマネジメントに関する基礎的・体系的な知識・技術、(c)社会人基礎力・pisa 型学力を統合的に身につけて、職場および地域社会の活性化に貢献できるスペシャリストを養成することを目指しています。
正規のカリキュラムの所定の単位を修得した者に卒業を認定し、学士(現代マネジメント)の学位を授与します。学位を授与するにあたって重視する項目は以下の通りです。
① 建学の精神、pisa 型学力を修得していること
② (a)基礎学力、(b)地域社会とマネジメントに関する基礎的・体系的専門知識・技術、(c)社会人基礎力を統合的に修得していること
③ 経済・経営・社会などの専門的な知識を生かしながら考え、行政、企業、NPO などでマネジメント能力を発揮し、地域や企業の発展に貢献しようとする姿勢を持っていること

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/curri_policy_manage.pdf）

（概要）
カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)
(A-l)教育課程の編成について
(原則)
現代マネジメント学部では、基礎学力、地域社会とマネジメントに関する基礎的・体系的な知識・技術、社会人基礎力を統合的に身につけることができるように、学士課程にあっては、幅広い視野と豊かな人間性を身につけする教養教育科目群、専門の基礎知識・技術を養成する専門基幹科目群、高度の専門的知識・技術を養成する専門応用目群により、専門分野の特性に応じ配置して、順次性をもたせ、かつ有機的に関連づけた体系的な教育課程を編成しています。
(A-2)教養教育について
教養教育科目としては、基礎学力を身につけることができるように、基礎演習・基本スキル科
(A-3)専門教育について
専門教育科目は、専門基幹科目と専門応用科目から構成されています。
(A-3-1)専門基幹科目
地域社会、マネジメントに関する基礎的な知識・技術を身につけることができるように、1 年次春学期に必修科目「現代社会の課題 j や「現代マネジメントを学ぶ」などを専門基幹科目とし配置しています。
(A-3-2)専門応用科目
基礎学力と地域社会とマネジメントに関する基礎的な知識・技術を身に付けた後、地

域社会とマネジメントに関する体系的な専門的知識・技術を学修するために、地域社会とマネジメントに関する専門科目及び同専門演習・同実習科目を配置しています。
(A-3-2-1)マネジメントに関する専門科目
「情報マネジメント論」、「マーケティング論」、「経営戦略論」、「経営管理論」、「人的資源
管理論」、「スポーツ経営論」をはじめとして、マネジメントに関する専門的知識・技術を体系的に身に付けることができるように科目を配置しています。
(A-3-2-2)地域社会に関する専門科目
「まちづくり論」、「地域スポーツ論」、「社会福祉論」、「地域交通論」、「非営利組織論」をはじめとして、地域社会に関する専門的知識・技術を体系的に身につけることができるように科目を配置しています。
(A-3-2-3)専門演習・実習
基礎学力、専門的知識・技術、社会人基礎力を統合的に身につけることができるように、1 年次春学期から 4 年次秋学期まで「問題解決基礎 1～4」と「現代マネジメント実習 1～4」おびゼミ科目を配置しています。
(A-4)初年次教育について
初年次教育科目として「基礎演習 1・2」を配置しています。この科目では、「一定の基礎学力の定着」、「対話する力」、「チームで考える力」、「発表する力」及び「活動を振り返る」の向上を図ることを目的としています。
(A-5)キャリア教育について
キャリア支援科目として、「キャリア設計 1～3」および「インターンシップ」を配置しています。
(A-6)リメディアル教育について
リメディアル教育の支援として、次の①～⑤を実施しています。
① 基礎学力補充の実態をふまえ、専任教員がそれぞれの特性を生かして学力補充に役立
つ講座、就職試験対策講座を開設
② 専門ゼミで就活支援として就職試験対策の実施
③ 専任教員がオフィスアワーで対応
④ 電子メールの活用で対応
⑤ 自習コーナー:図書館の一部にライティングデスク(専任教員による対応)を整備し、常時自習ができる場所を確保。図書館 2 階グループスタディルーム１、またはグループスタディルーム２を設置
(B)教職課程の実施について
高等学校教諭一種免許状(公民)を、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に基づいて必要な単位を修得するために、学部教養科目と連携する中で必修科目の選択を保障する教育課程を整備し、各授業科目についてその内容と指導の充実を図っています。また、教育実習においては、事前・事後の指導と共に、高等学校との連携を密接にとることから、より実践的な能力を獲得できるようにしています。
(C)資格対応について
社会調査士、ピオトープ計画管理士 2 級の資格取得ができるように「社会調査入門」、「社会調査方法論」、「社会調査法演習(質的、量的 1・2)」、「環境教育技術演習」などを配置しています。
また、各種資格取得・就職試験に対応した講座を特別に開講しています。
ビジネス能力検定/ 日商簿記検定/販売士検定/ファイナンシャルプランナー/秘書技能検定/MOS 試験/コミュニティ診断士
(注 l)「社会人基礎カ」とは、複数の人々が互いに協力・協働して共通の課題等を解決していくにあたって、一人ひとりのメンバーに要求される「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」という 3 つの能力を統合した課題解決型行動特性の

ことです。 (注 2)「pisa 型学力」とは、3 つの力(課題を解決するために必要な知識・情報等の資源を獲得する力、獲得した知識・情報等の資源を活用する力、獲得した知識・情報等の資源を活用して課題を解決する力)を統合した課題解決型学力のことです。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：　　）
（概要） 平成 31 年度から学生募集停止のため掲載していません。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/koukai/kyouinsuu.pdf

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	人	－					0 人
家政学部	1 人	17 人	10 人	8 人	2 人	8 人	46 人
現代マネジメント学部	1 人	13 人	4 人	0 人	0 人	0 人	18 人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	家政学部 54 人 現代マネジメント学部　1 人	55 人

各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法： 家政学部ライフスタイル学科 https://www.gakusen.ac.jp/u/department/lifestyle/curriculum.html 家政学部管理栄養学科 https://www.gakusen.ac.jp/u/department/nutrition/curriculum.html 家政学部こどもの生活学科 https://www.gakusen.ac.jp/u/department/children/curriculum.html 現代マネジメント学部 https://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/management/teacher.html

c. ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

本学のFDについては「愛知学泉大学FD委員会規程」に基づいて活動をしている。家政学部及び現代マネジメント学部ともに同様の活動をしており、その具体的な内容は、以下の通りである。

(1) 教員の教育研究能力向上のための教育技術の開発・向上、授業計画の立案、学習に関する教育方法の研究及び教育評価方法の習得のための活動
(2) 教育課程の開発・向上のための授業計画の立案、学習と教育に関する理論及び教育評価方法習得のための活動
(3) 教育目標を達成するための教員組織、単位制、クラス編成、学修支援のための活動
(4) IR委員会との共同による教育改善・教育能力向上の研究
(5) 教員間での教育能力向上及び教育改善に関する認識の共有

(6) 教員の教育能力向上、教育改善のための調査並びに検証及び学修成果の把握等の実施の統括とその分析を踏まえた教育等の開発、改善及び向上
(7) 教員評価の結果改善が必要と指摘された教員に対する支援
(8) ティーチング・ポートフォリオに関する研究及び研修
(9) 学生による授業評価を含む教育評価に関する点検・評価活動
(10) 研究所との共同による教育能力向上の研究
(11) その他、愛知学泉大学の教育目標を実現するために必要な教員の教育力を向上させるための研修及び教育に関する研究活動

令和２（2020）年度は以下の活動を行った。
(1) 教員の教育研究能力向上のための教育技術の開発・向上、授業計画の立案、学習に関する教育方法の研究及び教育評価方法の習得のための活動
授業展開として、第 1 回 FD 研修会はオンライン授業に活用できるスキルの修得を目的に「オンライン授業のブラッシュアップ（教育の質の向上）」をテーマに行い、後期のオンライン授業への支援とした。参加者は専任教員 34 名/36 名、非常勤講師 13 名であった。第 2 回 FD 研修会は「学修効果を高めるシラバスの作成方法」をテーマとして、卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連性、授業における学修の到達目標及び成績評価の方法・基準、オープンエデュケーション等を明確にすることを目的に行った。専任教員 33 名/36 名、非常勤講師は、オンラインで実施した。参加者全員がシラバス作成について理解できたと回答しており、科目担当教員はシラバスを作成した。
課題は、ディプロマ・ポリシーと当該授業科目の関連性の理解度が低かったことより、今後はさらに丁寧が説明をする必要がある。

(2) 教育課程の開発・向上のための授業計画の立案、学習と教育に関する理論及び教育評価方法習得のための活動
科目担当者は、カリキュラムマップ（履修系統図）と科目との関連性を活かしたシラバス（授業計画）の立案と実施評価し授業内容の見直しを行い、さらに第三者による点検により修正、追記等をすることで授業計画案を充実させた。
課題は新学科のカリキュラムの課題を抽出して、教育課程の向上への取り組みが必要である。

(3) 教育目標を達成するための教員組織、単位制、クラス編成、学修支援のための活動
学修支援としての成績評価の平準化を図る取り組みとして、IRとの協働で、過去6年間の学生のGPA値を各年度平均GPAを算出し、卒業認定の平均GPA値は1.0以上を提案した。
課題は、成績評価の平準化のガイドラインの作成、科目の成績評価より課題・改善点を抽出する必要がある。

(4) ＩＲ委員会との共同による教育改善・教育能力向上の研究
教育改善と教育能力向上の研究活動を推進する取り組みは、リメディア教育（外部テスト（RST）、授業評価アンケート結果分析、入学後の学修状況等を調査したうえでクロス分析を行い入学選抜の妥当性を検証した。リメディアル教育と成績評価との関連性は、見られなかった。これは、リメディアル教育を受けた学生が少なく関連性を明確にする人数ではなかったと考えられる。また、入学後の学修状況と入学選抜の妥当性についても関連性は見られなかった。
今後は実施結果からの課題を改善する教育改善・教育能力向上の研究活動をするさらに進める必要である。

(5) 教員間での教育能力向上及び教育改善に関する認識の共有
公開授業は「非対面授業（遠隔）における pisa 型学力の授業展開」をテーマに 3 学科

の授業を google Classroom を活用して、オンデマンドで実施した。対象科目は、ライフスタイル学科/家政学専「総合的な学習時間の指導法」、管理栄養学科/専攻「栄養カウンセリング論」、こどもの生活学科/専攻「幼児連携」の 3 科目で３教員が担当した。授業参観の参観教員数は 33 名でアンケート結果より pisa 型学力の活用法は、ディプロマ・ポリシーと関連づけて授業展開をしていると回答していることより、教育能力向上への取り組みを教員間で共有化している。

今後は、本学が取り組んでいる自学・共学システム「学びの泉」運用への授業展開に取り組む必要がある。

(6) 教員の教育能力向上、教育改善のための調査並びに検証及び学修成果の把握等の実施の統括とその分析を踏まえた教育等の開発、改善及び向上

シラバス記載の学修の到達目標と成績結果（学修成果）から、問題点を抽出する計画を立てていたが実施することはできなかった。また、学修時間調査と授業教育活動を授業評価アンケートより見直しはできた。改善については、リフレクションペーパーに記載している。

課題はシラバス記載の学修の到達目標と成績結果から到達度を確認し、課題を抽出する必要がある。また、リフレクションペーパーの記述内容を確認する必要がある。

(7) 教員評価の結果改善が必要と指摘された教員に対する支援

教員評価は「基礎学力と社会人基礎力と専門知識・技能を統合した教育活動および教育に関する教育活動」をテーマに実施した。評価結果は積極的に取り組んでいる「A」66.7%、取り組んでいる「C」18.2%で、全体の 85%は基礎学力と社会人基礎力と専門知識・技能を統合した教育活動に取り組んでいた。取り組んでいるとは判断できない「E」12.1%であった。

課題は評価 E 教員への支援、在職年数の違いによる評価基準を見直す等の改善が必要である。

(8) ティーチング・ポートフォリオに関する研究及び研修

T・P のブラッシュアップを行った。次の 4 項目「1.将来の授業の向上と改善、2.証拠の提示による教育活動の正当な評価、3、優れた授業、4.熱心な指導の共有等の効果」について、改訂されていることを FD 委員により確認した。その後、本学 HP「教員紹介」に掲載した。今後の課題として、T・P を評価するシステムが必要である。

(9) 学生による授業評価を含む教育評価に関する点検・評価活動

全開講科目（集中除く）を対象に前期は 12～13 週、後期は 14～15 週で①前期、実施科目数は 187 科目、実施率 73.8%、後期の実施科目数は、182 科目、実施率 98.9%、質問項目は 18 項目、前後期同様の質問項目で実施した。②学生の質問に対する評価は a.教員の説明は、明確で理解しやすかったは、、前後期共 75%以上、b.PCR シートの活用評価（学修内容の理解に役立った）は、後期での活用評価が非常に低値であった。c.予復習 1 時間以上は前期後期ともに低値であった。d.科目の達成度と e.授業の満足度は後期で高かった。f.社会人基礎力で発揮できない能力は「ストレスコントロール力」が前後期で高く、差がみられた能力は「働きかけ力、計画力」であった。③2020 年度授業評価アンケートの各学科・専攻別総評は、大学 HP「教育情報」にアップした。④教員の授業振り返りは、授業評価アンケートの結果を元に次年度の授業改善を目的に、リフレクションペーパーを作成した。このリフレクションペーパーは、図書館、教務課で閲覧可能とした。また、学科の教育評価として、学科長による講評を実施した。

課題は①学生に理解しやすい教授法をさらに研鑽する必要がある。②PCR（予習・本時・復習）シートの活用率が後期に低下している原因を分析し、活用率を上げる必要である。③予習・復習時間を増やす工夫が必要である。④前期授業で学修到達度と満足度を上げる

授業展開あげることが必要である。⑤社会人基礎力の発揮できない能力要素を支援する取り組みが必要である。さらに学生より教育評価の課題を抽出できるアンケート項目を検討すること、学生の学修成果の伸長状態（4 年間の変化）を分析して、ディプロマサプリメントで 4 年間の学修成果を確認する取り組みが必要である。

(10)研究所との共同による教育能力向上の研究
潜在能力開発研究所に投稿された論文・報告数は11報でした。コロナ禍によるフィールド調査、実験等に制約がかかり、投稿数が少ないと考えられる。

(11)その他、愛知学泉大学の教育目標を実現するために必要な教員の教育力を向上させるための研修及び教育に関する研究活動
令和２（2020）年度より学科をスタートした。「新学科へのカリキュラムを改訂したねらい」として、次の４項目について各学科で確認した。①新カリキュラムの教員間の共有化について：「学外の求める人材」についての共通理解ができていない。今後、学科内での理解の統一を図る必要がある。②カリキュラム運用について: アドミッションポリシーについては検討が進んでいない。③カリキュラム改革の成果について: ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーについての教員間での理解度のバラツキがみられる。④カリキュラムの分析・評価と次期カリキュラム改革に向けて: カリキュラムの方向性を確認するための評価指標として、GPA、入学前課題テストや RST、PROG テストのデータを活用して、分析を進める。
課題は、「新学科のカリキュラム改訂のねらい」を 4 項目について、継続して各学科内での情報共有と課題を明確にして、課題解決への体系的な取り組みを構築することが必要である。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
家政学部	190 人	169 人	88.9%	760 人	528 人	69.5%	0 人	0 人
現代マネジメント学部	－人	－人	－%	200 人	26 人	0.13%	0 人	0 人
合計	190 人	169 人	88.9%	960 人	554 人	57.7%	0 人	0 人

（備考）

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
家政学部	153 人 (100%)	0 人 (0%)	146 人 (95.4%)	7 人 (4.6%)
現代マネジメント学部	103 人 (100%)	2 人 (1.9%)	94 人 (91.3%)	7 人 (6.8%)
合計	256 人 (100%)	2 人 (0.8%)	240 人 (93.8%)	14 人 (5.5%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）
（備考）

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
家政学部	169 人 （100%）	147 人 （87.0%）	8 人 （4.7%）	12 人 （7.1%）	2 人 （1.2%）
現代マネジメント学部	128 人 （100%）	98 人 （76.6%）	1 人 （0.7%）	29 人 （22.7%）	0 人 （ 0%）
合計	297 人 （100%）	245 人 （82.5%）	9 人 （3.0%）	41 人 （13.8%）	2 人 （0.7%）

（備考）
・他の教育機関への進路変更
・体調不良（精神的）による休学・退学
・出産・育児による休学（留年）
・他学部・他専攻への異動

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法・基準、予習・復習の具体的内容、授業期間の授業の進め方、実務経験のある教員による授業科目等を記載した授業計画（シラバス）を作成している。ホームページに掲載しており、科目ごとに検索できるようにしている。

【シラバス】
家政学部ライフスタイル学科
https://www.gakusen.ac.jp/u/department/lifestyle/curriculum.html
家政学部管理栄養学科
https://www.gakusen.ac.jp/u/department/nutrition/curriculum.html
家政学部こどもの生活学科
https://www.gakusen.ac.jp/u/department/children/curriculum.html
現代マネジメント学部
https://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/management/curriculum.html

【年間の授業計画】
家政学部　http://www.gakusen.ac.jp/u/student/o_schedule.pdf
現代マネジメント学部　http://www.gakusen.ac.jp/center/t_schedule.pdf

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
学修成果にかかる履修・評価・単位認定等は学則第４章「履修方法及び課程修了の認定」に基づき実施している。
履修・評価・単位認定・GPA の利用等の詳細については「履修要項」に明記し公表・周知し、これに基づき実施している。
単位認定の適切性は、教務委員会にて各教員から出される成績評価を点検・確認し、成績評

価の公正性を確保できるようにしている。
　卒業認定については、卒業要件単位だけでなく、本学の教育目標である以下の事も身に付けている事を確認している。教育目標は、社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能、②職業に関する専門的知識・技能、③建学の精神・社会人基礎力・pisa 型学力・直観力・自然体を統合的に見に付けて、地域及び国際社会に貢献する社会人となる。
　卒業認定は、卒業認定要件を満たした者の原案を教務委員会が作成し、学部会議で、審議し、その結果を学長が認定する事となっている。

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
家政学部	ライフスタイル学科	124 単位	有	48 単位
	管理栄養学科	124 単位	有	48 単位
	こどもの生活学科	124 単位	有	なし
現代マネジメント学部	現代マネジメント学科	124 単位	有	48 単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）	公表方法： ライフスタイル学科 https://www.gakusen.ac.jp/u/department/lifestyle/syllabus/2020/tebiki.pdf 管理栄養学科 https://www.gakusen.ac.jp/u/department/nutrition/syllabus/2020/tebiki.pdf こどもの生活学科 https://www.gakusen.ac.jp/u/department/children/syllabus/2020/tebiki.pdf 現代マネジメント学科 https://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/management/sirabasu/guide2021.pdf			
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）	公表方法：			

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：
キャンパスマップ岡崎　https://www.gakusen.ac.jp/u/univ/institution_o.html
キャンパスマップ豊田　https://www.gakusen.ac.jp/u/univ/institution_t.html
課外活動　https://www.gakusen.ac.jp/u/life/index.html#life02
福利厚生　https://www.gakusen.ac.jp/u/life/index.html#life01

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
家政学部	ライフスタイル学科	730,000 円	250,000 円	481,160 円	
	管理栄養学科	730,000 円	250,000 円	506,160 円	

	こどもの生活学科	730,000円	250,000円	491,160円	
現代マネジメント学部	現代マネジメント学科	580,000円	－円	406,500円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）

【家政学部】

講義、実験・実習での疑問点や関心のある問題への支援、勉学に関する支援、在学生が充実した大学生活を送れるよう生活全般の支援は「オフィスアワー制度」を実施し、相談支援を行っている。

また、本学部では、クラス制を導入しており、1クラスに2~3名のクラス指導教授を配置している。クラス指導教授は、前期1回、後期1回クラス全員に対して個別面談を実施し、学修状況の確認をし、進路指導等きめ細やかな指導を行っている。さらに、学期GPAが1.0未満の学生については、通常面談とは別に学修内容に特化した面談を実施している。

【現代マネジメント学部】

毎学期ごとに履修オリエンテーションを行い、修学上の注意点を説明している。修学に関する指導は、教務委員会が中心となり行っており、単位の取得状況や、出席状況などを調査し、個別に指導する事もある。指導が必要と思う学生はゼミナール担当教員に連絡し、指導を依頼している。また、GPAによる成績管理も行っており、GPAの低い学生には、ゼミナール担当教員、教務委員長、学部長が段階的に個別面談指導を行い、学習意欲向上に努めている。

1年生から4年生までゼミナールが設置されており、ゼミナール担当教員が指導教員としての位置づけで生活面での支援、進路についての支援等の学生指導をしている。修学面においても同様である。加えて、全専任教員がオフィスアワーを設けており、学生の疑問や質問あるいは相談等に応えられる体制を整えている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

【家政学部】

家政学部では、就職や進路について相談に応じる就職指導委員（教員）および、就職課員が進路支援を行っている。支援の内容としては、3年次に進路希望調査を行い、就職課での資料閲覧、相談、就職ガイダンスや学内企業合同説明会などを実施。4年次では、エントリーシート・履歴書添削、面接指導（個別・グループ）などの支援を実施している。また、就職活動の早期化に対応するため、1～2 年次において、就職対策講座を開催している。その他に、社会人基礎力を就職活動に活用する取組も行っており、3年次に外部評価委員による年間2回の面談を全員が受けている。

【現代マネジメント学部】

学生に対する就職や進路支援は、就職指導委員(教員)および就職課員が指導と相談に応じている。支援の内容は以下の通りある。1年では「基礎演習 1」「基礎演習 2」において学習を通じて自己の将来を考え、2年次では「キャリア設計 1」において自己のキャリアの形成のための能力を育成し、3年次では「キャリア設計 2」おいて就職活動のための基礎知識を習得させ、「キャリア設計 3」では就労の重要性と将来の生き方を思考する。また「インターンシップ」で自己のキャリアに関連した就業体験をする。さらに業界研究

会を通じて企業の人事担当者との面談の期間を設けている。その他、エントリーシート、履歴書の添削や書き方支援、模擬面接などを行っている。4 年次では、個々の学生の個性を考慮した綿密な個別面談を行っている。これらの他に全学年を対象に SPI などの筆記試験対策や公務員試験対策講座を設けている。さらに、本学は社会人基礎力の育成に力を入れており、社会人基礎力を就職活動に活用した取組として、3 年生全員を対象に外部評価者による面談を年 2 回行っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

【家政学部】

学生委員会（学生課、保健室を含む）が、取り組んでいる。学生全体に対しては、毎年行っている「学生生活に関する調査」の中で、「今、抱えている不安や悩み、気になっていることを、教えて下さい」や「身体は健康ですか」「精神的に安定していますか」「学生相談室で、スクールカウンセラーが悩みの相談にのってくれることを知っていますか」などの質問を設定し、全体の把握と施設の周知を行っている。

毎月開かれる学生委員会の会議では、各専攻で心身に問題があると思われる学生の情報を話し合い、共有し、体制を整えている。保健室からのアドバイスや、学生相談室への誘導も行っている。

保健室では、来室状況や対処状況、学生相談室の利用状況も、毎月の会議で報告し、指導教授や専攻主任、カウンセラーを含めたカンファレンスも開いている。健康診断の 2 次健診の準備も行っている。

学生相談室は、ほぼ週 2 回開設された。2020 年度は、6 月：2 人、7 月：2 人、9 月：3 人、10 月：10 人、11 月：8 人、12 月：5 人、1 月：2 人の学生が利用している。

【現代マネジメント学部】

保健室と学生相談室を設置し、保健室においては身体面、学生相談室においては心の面における健康相談と維持にと努めている。

保健室には看護師の方、学生相談室には臨床心理士・公認心理師の方に勤務して頂き、専門家の立場で対応して頂いている。

その一方で、ゼミナール担当教員が、指導教員としての立場で学生指導も行っているが、心身の健康面においても注意を払い、場合によっては保健室や学生相談室と学生本人をつなぐ役割を果たしている。

なお、学生委員会でも学生動向に注意を払い、支援の必要性の有無を協議し、場合によっては対応している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

家政学部ライフスタイル学科

https://www.gakusen.ac.jp/u/department/lifestyle/curriculum.html

家政学部管理栄養学科

https://www.gakusen.ac.jp/u/department/nutrition/curriculum.html

家政学部こどもの生活学科

https://www.gakusen.ac.jp/u/department/children/curriculum.html

現代マネジメント学部

https://www.gakusen.ac.jp/u/faculty/management/teacher.html